

「地域におけるスポーツ実践の担い手」の養成を目的とした大学体育授業のあり方 — 「スポーツⅠ」を事例として —

侘美俊輔

●要約

近年、「地域づくり実践」の1つのツールとして、スポーツへの期待が高まっている。しかしながら、高校までの「学校体育」においては、運動の好き、嫌いな生徒の二極化が進行していると指摘されており、学習指導要領に記載されている「生涯」にわたる運動の継続に寄与しているとは言い難い現状がある。それゆえ大学体育においては、こうしたスポーツに対する負のイメージを払拭することが求められている。

本報告では、稚内北星学園大学で1年生を対象に開講されている「スポーツⅠ」の実践内容を検討する。上述した現状を受け、スポーツⅠでは、「楽しさ」や「手軽さ」に力点を置き運動が苦手な学生でも気軽に参加できるような授業づくりを行っている。その結果として運動に対する肯定的な態度、さらには「生涯スポーツ社会」の一翼を担う地域で活躍できる人材の養成を目標としている。

●キーワード

大学体育

スポーツの楽しさ

運動が苦手な学生

地域スポーツ